

平成27年4月21日(火)に全国学力・学習状況調査を南越前町内の全ての小学校(4校)の6年生110名、中学校(3校)の3年生114名を対象に行いました。今年度は3年ごとに実施する理科も加わり、3教科での実施でした。調査結果については昨年同様、**児童生徒の学習状況の改善に役立て**、教育委員会や学校が保護者や地域の皆様とともに協力し合うことで一層の学習効果を高める目的で公表いたします。

1. 南越前町全小・中学校の学力調査の結果

平均正答率に関しては、昨年同様町内の小中学校ごとの結果を全国トップレベルの福井県及び全国と比較し、上下各2.5ポイント幅の範囲内を同程度、さらにそれを上回る範囲と下回る範囲とで表わすことで、学習状況等の各項目と比較して課題意識が持てるようにしています。

- (注1) 本町内の小中学校は小規模校が多く、平均正答率を用いて表わすと、その年度の数値が一人歩きしたり、経年変化を追うと学校の序列化につながったりするなど、学力調査の目的を逸脱してしまう恐れが大きいと考え、以下のとおり表しました。
- (注2) A問題とは、主に「知識」(身に付けておかなければならない基礎的な知識・技能)、B問題とは「活用」(知識や技能を実生活の中に活用する力)を問う問題のことです。
- (注3) 平均正答率とは、各児童生徒について全設問における正答数の割合を算出した値(個人の正答率)を足し合わせ、児童生徒の人数で割った値のことです。

◆小学校(4校)

教科	領 域	本町の結果	
		県比較	全国比較
国語	A(知識)	下回る	同程度
	B(活用)	同程度	上回る
算数	A(知識)	下回る	同程度
	B(活用)	下回る	同程度
理科	AB共通	下回る	上回る

◆中学校(3校)

教科	領 域	本町の結果	
		県比較	全国比較
国語	A(知識)	上回る	上回る
	B(活用)	上回る	上回る
数学	A(知識)	上回る	上回る
	B(活用)	上回る	上回る
理科	AB共通	上回る	上回る

* 本県と全国の平均正答率より
+2.5ポイントを上回る(上回る)
-2.5~+2.5ポイント(同程度)
-2.5ポイントを下回る(下回る)

*** ±2.5の幅の設定理由***

例年、この調査の本町の小中学校における標準偏差をみると、2.0~3.0で推移しています。統計上、平均正答率からのばらつきが±標準偏差の間に約68%、±標準偏差×2の間には約95%の割合で分布することになります。このようなことから、本町では±2.5の幅を判断基準としています。

2. 学力調査結果の成果と課題

各教科の調査結果は、「成果」と「課題」に分類して特徴的な傾向を示し、伸ばす面や改善すべき面を具体的に把握できるものとして示しています。

また、学力調査の結果を判断する基準は、県の平均正答率から±2.5ポイントの幅とし、2.5ポイント程度上回っているものを「成果」とし、2.5ポイント程度下回っているものを「課題」としてその中の特に顕著なものを取り上げました。

◆小学校 国語

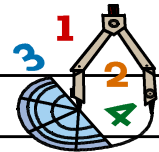
	成 果	課 題
A (知識)	○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む 〈例〉 友人を家に招く 自分の信念をつらぬく	▼学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く 〈例〉 びょういんに行く ▼文の中における主語を捉える 〈内容〉短文の主語として適切なものを選ぶ問題
	○具体的な事例を挙げて説明する文章を書く 〈内容〉説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選ぶ問題	▼話の内容に対する書き方を工夫する 〈内容〉聞き方の説明として、適切なものを選ぶ問題

	成 果	課 題
B (活用)	○目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える 〈内容〉文章の要旨をまとめて書く問題	▼目的に応じ、中心となる語や文を捉える 〈内容〉文章を読んでまとめた例文の□にあてはまる内容を、文中から抜き出す問題
	○文章と図とを関連づけて、自分の考えを書く 〈内容〉楽器の分担の決め方について、「楽器の分担図」を基にして書く問題	▼目的や意図に応じ、記事に見出しをつける 〈内容〉新聞記事の大見出しの表現の工夫についての説明として、適切なものを選ぶ問題

◆小学校 算数

	成 果	課 題
A (知識)	○加法における計算の確かめの方法を理解している ＜例＞$6.3+0.22=6.52$の確かめとして、$\square-\square$を計算して口になることを確かめる。この口に入る数字を答える問題 ○繰り上がりのある2位数の加法の計算をすることができる ＜例＞ $28+72$を計算する	▼円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる ＜内容＞円の中心と円周上の2点を頂点とする三角形の角の大きさを求める問題 ▼除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができる ＜例＞ $5/6 \div 7$を計算する

	成 果	課 題
B (活用)	○平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している ＜内容＞作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ問題 ○四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる ＜内容＞4つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数の和を求める式と答えを書く問題	▼切り上げた場合の見積もりの結果を基に、目標に達しているかについて判断できる ＜4(2)＞切り上げて計算した結果が10,000であることから分かることを選ぶ問題 ▼条件を変更した場面に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることができる ＜5(2)＞示された図形の色がついた部分の面積を求める問題



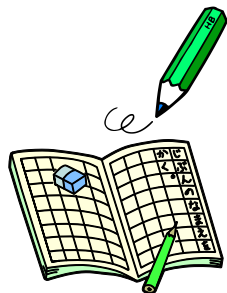
◆小学校 理科

成 果	課 題
○顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている ＜2(4)＞顕微鏡の適切な操作方法（ピントを合わせる）を選ぶ問題。 ○方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できる ＜4(1)＞図の方位についての情報から、観察している方位を選ぶ問題。	▼星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身に付けている ＜4(3)＞星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ問題。 （星座の動くようすを観察するために、電柱などの動かないものを目印にする） ▼顕微鏡やメスシリンダーの名称を理解している ＜2(3), 3(4)＞実験器具の名前を、図を見て答える問題 ▼振り子時計の調整の仕方を調べるための実験について、条件を制御しながら構想できる ＜1(1)＞振り子が1往復する時間を変える要因を調べるため適切に条件を変えた振り子を選ぶ問題。



◆中学校 国語

	成 果	課 題
A (知識)	○単語の類別について理解する ＜9(四)＞「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する問題。 ○手紙の書き方を理解して書く ＜9(六)＞手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する問題。 ○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う ＜9(三)＞ 将来は^ア予報士^イ 彼がこの討論の^ウ切っ掛け^エを切った^オ 私が先生のお宅に^カマります^キ I 彼女は、学級の^ク下の力持ち^コ オ ^ケク雲の間から^コ新聞を読む^カ	▼文脈に即して漢字を正しく書く・読む ＜9(一), 9(二)＞ ・アマったお金を貯金する。 ・詳細に述べる。



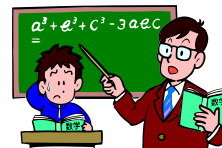
	成 果	課 題
B (活用)	○状況に応じて、資料を活用して話す ＜1(一)＞ノートのその他の情報を役立てられる場合として、適切なものを選ぶ問題。 ○文章の中心的部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える ＜2(二)＞雑誌の記事に書かれていることとして、適切なものを選択する問題。 ○資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く ＜1(三)＞演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結びつけて書く問題。	▼文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く ＜3(三)＞文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、語の展開を取り上げて自分の考えを書く問題。 ▼複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く （この2つは、県よりもよい正答率だったが、数字的に低かった内容） ＜2(三)＞資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く問題。

◆中学校 数学

	成 果	課 題
A (知識)	○文字を用いた式で数量の関係の説明するための構想を理解している ＜2(4)＞連続する3つの整数のうち最も小さい整数をnとすると、それらの和が中央の整数の3倍になることを、nを用いた式で表す問題。 ○少数を含む一元一次方程式を解くことができる ＜3(2)＞$1.2x - 6 = 0.5x + 1$を解く問題。 ○垂線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している ＜4(1)＞垂線の作図で利用されている図形の性質を選ぶ問題。	▼数量の関係を文字式に表すことができる ＜2(2)＞赤いテープの長さがa cmで、白いテープの長さの$3/5$倍のとき、白いテープの長さをaを用いた式で表す問題。 ▼証明の必要性和意味を理解している ＜8＞対頂角は等しいことの証明について、正しい記述を選ぶ問題。



	成 果	課 題
B (活用)	○発展的に考え、予想した事柄を説明することができる ＜2(3)＞連続する5つの整数の和について、成り立つ事柄を表現する問題。 ○事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる ＜2(2)＞連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成させる問題。 ○与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することが出来る ＜5(1)＞1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具が占める割合を求める問題。	▼必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができる ＜1(2)＞投影画像がスクリーンに収まり、できるだけ大きく映し出すことができる投影距離を選ぶ問題。 ▼与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断できる ＜6(1)＞中心角の大きさxと半径の長さyの間にある関係について、正しい記述を選ぶ問題。



◆中学校 理科

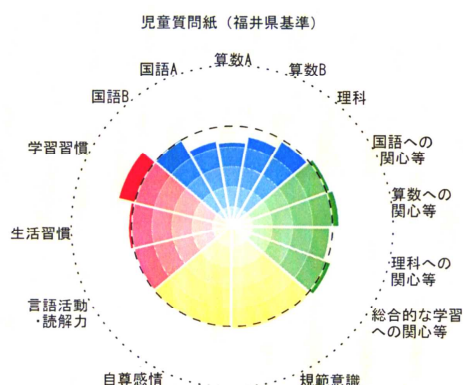
成 果	課 題
○特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求めることができる ＜1(1)＞濃度5%の塩化ナトリウム水溶液100 gをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める問題。 ○技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入切りによる磁界の変化を説明することができる ＜5(2)＞電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を「磁界」という言葉を使って説明する問題。 ○背骨のある動物をセキツイ動物と表すことができる ＜8(1)＞背骨のある動物の名称を答える問題。	▼他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連づけて雲の成因を正しく説明することができる ＜2(3)＞湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているところを改善する問題。 ▼音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画することができる ＜6(2)＞音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選ぶ問題。



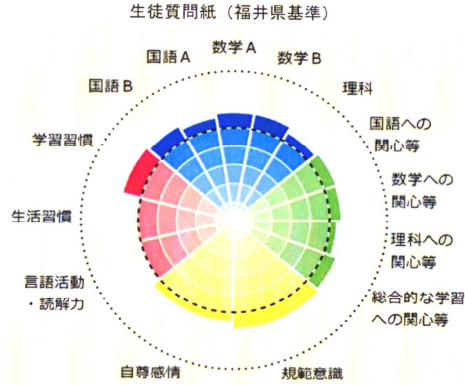
3. 学習状況調査結果

学習状況調査の結果は「良好な点」と「課題点」に分類し、児童生徒の自尊感情や生活習慣、規範意識、学習習慣などの項目を国や県の様子とも照らし合わせながら比較しました。分類の基準は、『2. 学力調査結果』と同様に、県の平均を上回っている範囲のものを「良好な点」、下回っている範囲のものを「課題点」としました。ここで取り上げる「良好な点」と「課題点」は、本町内の全児童生徒の状況をまとめた次のようなチャート図に表されるように、児童生徒の特徴と言えるものです。

＜資料1；南越前町内小学校＞



＜資料2；南越前町内中学校＞



（注）資料の外側の点線は、見やすさという観点で引いたものであり、何らかの基準を示すものではありません。）

このチャート図の資料1をみると、町内の小学生は「国語Bおよび理科で努力がみられること。さらに、生活習慣も県と引けを取らず、特に学習習慣についてはしっかり身につけていること。」がわかります。ただ、国語Aおよび算数Aが低くなっていることを考えると、基礎的な学習の時間をしっかりと確保し、今以上に基礎基本の定着を図る工夫が必要です。資料2の中学校では、全ての教科において努力がみられ、学習への関心の高さが感じられます。また、規範意識が高く真面目に学校生活を送っていることが見て取れます。

このような特徴をみるために、学習状況調査は、学習習慣・生活習慣・言語活動(読解力)・自尊感情規範意識等の各項目の状況がわかるような質問になっています。その結果をもとに、南越前町の小中学校の児童生徒の「良好な点」と「課題点」を次の表のようにまとめました。

◆小学校

良好な点	課題点
○朝食を毎日食べている ○話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞ける ○将来の夢や目標をもっている ○学校の図書室や地区の図書館によく行く ○保護者が授業参観や体育会などの学校行事によく参加している ○自分で計画を立てて勉強している ○予習・復習をしている ○学校へ行くのが楽しい ○地域の行事によく参加している ○人の役に立つ人間になりたいと思っている ○学校の決まりを守っている ○人の気持ちが分かる人間になりたい ○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う 	▼自分には良いところがないと思っている ▼ものごとをやり遂げて、うれしかったという経験が少ない ▼難しいと思われることに対し、失敗を恐れてなかなか挑戦できない ▼友だちの前で自分の考えや意見を発表することが苦手 ▼普段の日にテレビやビデオ、DVDを見る時間が長い ▼学校の授業以外の1日の学習時間が少ない ▼土日の学習時間が極端に少ない ▼家の人と学校での出来事について話をする子は、2極化している（よくする子と、全くしない子が2分） ▼新聞を読んでいない子が多い (テレビのニュースは見ている)

◆中学校

良好な点	課題点
○朝食を毎日食べている ○ものごとを最後までやり遂げてうれしかった経験がある ○難しいことでも失敗を恐れず挑戦している ○自分にはよいところがあると思う ○話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞ける ○将来の夢や目標を持っている ○一日の携帯・スマホの使用時間が少ない ○家の人と学校での出来事についてよく話している ○保護者は授業参観や体育会などの学校行事によく来る ○学校の規則を守っている ○学校に行くのは楽しい ○今住んでいる地域の行事に参加している	▼友だちの前で自分の考えや意見を発表することが苦手 ▼学校の図書室や地区の図書館にあまり行かない ▼読書の時間が短い ▼自分で計画を立てて勉強をしている子が少ない ▼地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がない ▼新聞を読んでいない生徒が多い  

これらの結果を、今後の学校生活で児童生徒のどの面に注目して指導改善していくべきかを検討する資料として生かしていきます。

4. 学力調査と学習状況調査の相関関係

学力調査と学習状況調査の結果から分かる相関関係については、小学校・中学校を問わず次のようなことが指摘できます。

＜「当てはまる」と答えた児童生徒と、「当てはまらない」と答えた児童生徒の平均正答率の差＞	
○朝食を毎日食べている。．．．．．	+12.1%
○学校の授業以外に、1日あたり30分以上読書をしている。．．．．．	+4.0%
○家で、自分で計画を立てて勉強している。．．．．．	+4.5%
○新聞を週に1～3回以上読んでいる。．．．．．	+4.0%
○学校のきまりを守っている。．．．．．	+6.3%
○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。．．．．．	+2.4%
○人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている。．．．．．	+4.2%
○人の役に立つ人間になりたいと思っている。．．．．．	+5.3%



この数字は、5科目の平均を表示させています。

- 普段1日あたり2時間以上テレビやDVDを見ている。・・・－5.8%
 ○普段1日あたり2時間以上ゲームをしている。・・・－15.2%
 ○普段1日あたり1時間以上携帯電話やスマートフォンを使っている。・・・－1.3%

使いすぎ注意！



◆ 3. 4の結果から課題として改善を要すること ◆

- 小中学校ともに、「文章を読む力、書く力がある子は、新聞を読んでいる」という傾向が見られます。新聞を読まなくてもテレビのニュースを見れば手っ取り早く世の中のことは分かります。しかし、新聞の文字を読むことは、耳で言葉を聞くことよりもより脳が活性化し、新しい言葉や漢字などにも対応できるようになるようです。毎日でなくてもいいので、新聞を読むことを習慣にする必要があるようです。
- どの学校においても「友だちの前で自分の考えや意見を発表することが苦手である」というような傾向が見られます。各学校で言語活動やコミュニケーション能力の向上を研究テーマの中に取り上げ、児童生徒に対し様々な取組を行っています。今後も、授業における言語活動の効果的な活用について検討し実践を重ねることで、自分を表現することに自信を持ち、他者と良い関わりが持てる子どもを育てていきたいと考えています。
- 特に中学校では「自分で計画を立てて勉強ができるかどうか」という点が、学力を伸ばすという面において大きな影響があるようです。これまでのように、学校の先生から与えられた課題ばかりでなく自分で自分の弱いところをしっかりと認識し、何をしたらその弱点を補強できるのか考えて勉強できる子どもを育てていく必要があります。学校と家庭がしっかりと連携を取って、「子どもたちだけで出来る事は、可能な限り子どもたちに任せる」という大人側の考え方の転換も必要なようです。

5. 今後の対策

(1) 学校での取り組み

学校では、学力調査や学習状況調査の結果から見えてきた課題点を克服する授業、個に応じた授業や指導を学校教育の全般を通して行うことが大切です。このようなことから、各校の調査結果の「良好な点」を伸ばし、「課題点」を克服する指導を展開するために、次の点に力を入れていきます。

- ① 教科指導や総合・学活等で「児童生徒相互の学び合い」を意識した、児童生徒主体の授業を展開する。
- ② 朝学習、教科学習など、基礎・基本を徹底する時間を充実する。
- ③ 教育活動の場で、「新聞の活用（N I E）」を推進するなど、情報を活用する力を高める。
- ④ 家庭学習の内容など、個に応じた課題の学習を充実する。
- ⑤ 家庭や地域と連携した「道徳教育」を推進し、児童生徒の道徳性を高める。

それらを踏まえて各学校では昨年度に引き続き・・・

**明るく豊かな人間性と健やかでたくましい身体を育むとともに、
「基礎基本の定着を図り、確かな学力を育む」ことを目指していきます。**



各校の指導・支援体制を充実し、
ユニバーサルデザインの視点を生かし、どの子にも分かりやすい授業(*)
を実施しています。

(*) 共生社会を目指して
国が取り組む中で、
学校教育での多様な
教育的ニーズに呼応
して、すべての子に
とって分かりやすい
授業を行うこと。

<展開の留意点>	<期待できる効果>
(1) 学習の展開例 ① つかむ（学習の見通し） ② 追求する（課題の決定、自力解決） ③ 共有する（伝え合い、学び合い） ④ 振り返る（学習のまとめ） (2) 指導に当たっての留意点 ① 個に応じた指導と支援の展開 ・ユニバーサルデザインの視点から ・教師や支援員などの場に応じた支援や声かけの重視	☆「伝え合い、学び合い」の活動から、学習への意欲（主体性）、学習内容の定着が高まる。 ☆南越前町の児童生徒の課題を解決することにつながる。 ・言語活動が活発になる。 ・達成感や成就感により、自分に自信がつき「自尊感情」が高まる。 ・「授業内容」を理解できる児童生徒が増えることにつながる。

- ②見通し・振り返りの時間の設定
- ③言語活動の時間の設定
 - ・説明や解説、話し合いの時間
 - ・文章表現の時間
 - ・聞き取る時間
 - ・比較、考察する時間
- ④自己評価や個人評価の実施
- ⑤発展学習への展開
 - ・家庭学習への課題の提供

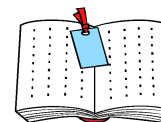
授業を進める上での学習形態や指導・支援

- ①習熟の程度に応じた学習を進める。
 - ・個々のレディネスを把握した学び場の設定
- ②多様な学習形態を活用する。(アクティブ・ラーニングを取り入れる)
 - ・一斉・個別・グループ・ペアでの学習の工夫
- ③課題に応じた手段の活用。
 - ・体験的な学習活動
 - ・ICT機器の効果的な利用

(2) ご家庭にお願いしたいこと

家庭での課題が、「家庭での学習時間が少ない」「自分で計画を立てて勉強できていない」等の状況であることから、学校と家庭が連携し、次のように家庭学習の充実を目指しましょう。

- ①規則正しい生活習慣を身につける
 - ・「早寝・早起き・朝ご飯」を習慣にし、テレビやゲーム、スマホはルールを守って使うようにする。
- ②家庭学習に、「調べ学習」「繰り返し学習」「読書」などの時間を設け、学習習慣が身につくようにする。
 - ・「調べ学習」とは；学校での学習課題や苦手な教科の予習などを、ノートなどに調べてまとめる学習のこと。
 - ・「繰り返し学習」とは；テストの間違い箇所や計算・漢字の反復などの学習のこと。
 - ・ここでの「読書」とは；読み物や調べ学習等の資料本を活用することによる読書のこと。
- ③家庭学習の時間は、自分で目標を決め、毎日継続的に一定時間を確保できるようにする。
 - ・個々の実情に応じ、「読書」や「新聞を読む」時間も盛り込みながら計画的に行う。



※積極的に各ご家庭で、関わり合いを持って下さい。

(3) 地域にお願いしたいこと

学習状況調査の結果からも指摘できる地域の中での課題が、「地域や社会に関心がない」「地域の大人との関わりが少ない」などがあるため、今一度のご理解とご協力をお願いします。

- ①普段から地区の子どもたちに「おはよう」、「気をつけて行ってらっしゃい」、「おかえり」、「それはあかんよ」などの気軽な声かけをしましょう。
- ②地区行事を子どもたちにとって魅力あるものにしましょう。
 - ・行事の中に役割があって、人から頼りにされたり、自分が役に立っているという自覚が持てたりできるような行事になるよう、「子どもたちの居場所づくり」をお願いします。
- ③ふるさとに愛着を持てるよう、地域の行事に参加し、ふるさとの良さや「地域の価値」を見つけられるように、行事の中で「楽しかった」「おいしかった」「感激した」など、地域の価値を見いだせる体験活動の企画などよろしくお願いします。

